

学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする

2) 大学設置基準の改正に関する留意事項

- 各大学における社会的・職業的自立に関する指導等の在り方
- 教育課程の編成における取り扱い
- 学内における実施体制の確保
- 大学の取組状況の公表
- 産業界や各種団体をはじめとする社会との連携と協力

3) 関連する大学設置基準の改正

- 人材養成目的の公表（第2条の2）
- 授業の方法・内容、年間授業計画、成績評価基準、卒業認定基準の明示（第25条の2）
- 教育内容の改善のための組織的な研修（FD）の実施（第25条の3）

（出典：文部科学省「大学設置基準及び短期大学設置基準の一部を改正する省令の施行について」（2010年3月12日）

(3) キャリア教育が提唱された背景

- 20世紀後半から生じた、地球規模の情報技術革新に起因する社会・経済・産業環境の国際化、グローバル化によって、日本の社会・産業・雇用に構造的な変革をもたらしたこと
 - 子どもや若者が育つ社会環境の変化や若者自身の資質などをめぐる課題から、学校から社会への移行をめぐる課題が現出した
 - 子どもたちの身体的な早熟傾向に比して精神的・社会的側面の発達が遅れがちであることや、高学歴社会における進路の未決定傾向など、子供たちの生活や意識の変容がみられる
- （参照：文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」2011年5月、中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）2011年1月）

キャリア教育の目的について

キャリア教育の目的は、定義にも示されているように、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す」ことです。目的の実現のために、「基礎的・汎用的能力」や「勤労観・職業観等の価値観」「意欲・態度」などの力を身につけることが求められています。これまで、学校教育で身につける力として、各省庁から「生きる力」「社会人基礎力」「若年者就職基礎能力」「人間力」「学士力」などが提示されてきました。これらの概念を整理し、初等中等教育から高等教育までに共通する枠組みとして示されたのが「基礎的・汎用的能力」です。しかし、大切なことは大学や学部・学科の理念・目的・教育目標に応じてキャリア教育の目的を適切に位置づけ、それぞれの大学や学生の特徴に合わせたキャリア教育を展開することです。大学設置基準が改正されましたが、キャリアセンターやキャリア教育科目・キャリア開発科目などの開設を義務づけるものではありません。全学的に議論して、系統的なキャリア教育を組織的に展開するとともに、学生に対する個別の支援を充実させることが必要といえるでしょう。そのためには、大学側にはキャリア教育についての理解が求められ、大学で活動するキャリア・コンサルタントには、当該大学における教育の理念・目的・教育目標を理解するとともに、大学や学生の特徴を把握することが求められます。

関西大学社会学部 教授 川崎友嗣

2 キャリア教育の目標（身につける力）

(1) キャリア発達にかかわる諸能力（4領域8能力）

- 児童や生徒が将来自立した社会人・職業人として生きていくために必要な能力や態度、資質として「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の「4つの能力」を児童生徒の成長の各時期において身に付けることが期待される能力・態度などとして例示している
- 4つの能力が、それぞれ2つの下位能力に分けて説明されている

【キャリア発達にかかわる諸能力】

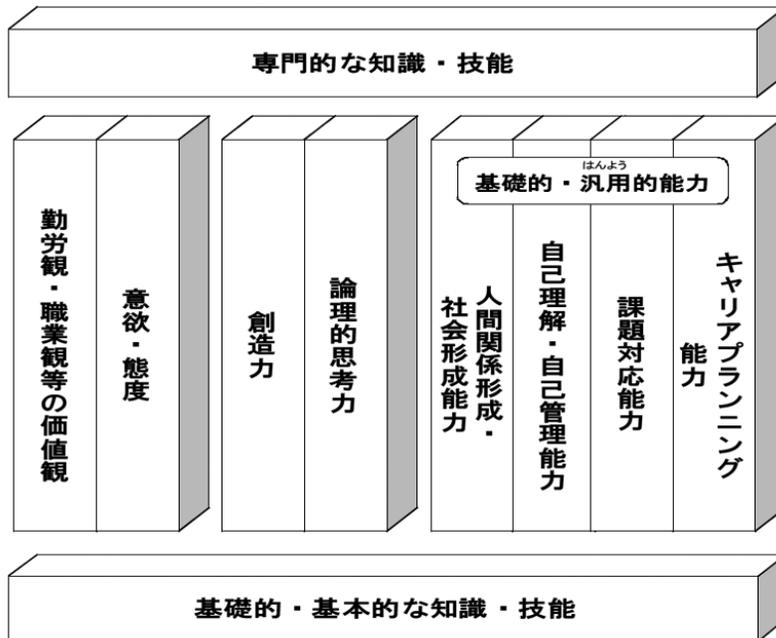
領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同しものごとに取り組む	自他の理解能力 ：自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力 コミュニケーション能力 ：多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす	情報収集・探索能力 ：進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力 職業理解能力 ：様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する	役割把握・認識能力 ：生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力 計画実行能力 ：目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
意思決定能力	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	選択能力 ：様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力 課題解決能力 ：意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

(出典：国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」(2002年11月))

(2) 社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な能力

- 社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力は、人の生得的な力ではなく、義務教育から高等教育までの学校教育において育成することができる力であり、子ども・若者にとって夢や希望、目標を持ち、それらを具体的に行動に移していくことで実現を図ることができるような力である
- その力の育成に当たっては、社会への出口が中学校卒業段階から高等教育修了段階まで多岐にわたっていること、時代によって変化するものであること等に留意しなければならない

【社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な能力の要素】



(資料出所：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申) 2011年1月)

① 基礎的・基本的な知識・技能

- 読み・書き・計算などの知識・技能
- 税金や社会保険、労働者の権利・義務などに関する理解

② 価値観・意欲・態度

- 価値観は人生観や社会観、倫理観など、個人の内面にあって価値判断の基準になるものであり、価値を認めて何かをしようと思ひ、それを行動に移す際に意欲や態度として具体化するものである
- 価値観には、「なぜ仕事をするのか」、「自分の人生の中で仕事や職業をどのように位置付けるか」という、これまでキャリア教育が育成するものとしてきた勤労観・職業観も含む
- 意欲・態度は、生涯にわたって社会で仕事に取り組み、具体的に行動する際にきわめて重要な要素である
- 意欲や態度が能力を高めることにつながったり、能力を育成することが意欲・態度を高めたりすることもあり、両者は密接に関連している

③ 論理的思考力・創造力

- これらは、物事を論理的に考え、新たな発想等を考え出す力である
- 論理的思考力は、学力の要素にある「思考力、判断力、表現力」にも表れている重要な要素であり、後期中等教育や高等教育の段階では、社会を健全に批判するような思考力を養うことにもつながる
- 創造力は、変化の激しい社会において、自ら新たな社会を創造・構築していくために必要である
- これらの論理的思考力、創造力は、基礎的・基本的な知識・技能や専門的な知識・技能の育成と相互に関連させながら育成することが必要である

④ 専門的な知識・技能

- どのような仕事・職業であっても、その仕事を遂行するためには、一定の専門性が必要である
- 専門性を持つことは、個々人の個性を発揮することにもつながることから、自分の将来を展望しながら自らに必要な専門性を選択し、それに必要な知識・技能を育成することは極めて重要である
- 今後は、専門的知識・技能を学校教育の中でも意識的に育成していくことが必要であり、この観点から、職業教育の在り方を見直して、充実していく必要がある

⑤ 基礎的・汎用的能力

- 分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である
- 社会人・職業人に必要とされる基礎的な能力と学校教育で育成している能力との接点を確認し、これらの能力育成を、キャリア教育の視点に取り込んでいくことは、学校と社会・職業との接続を考える上で意義がある
- 具体的内容は、仕事に就くことに焦点を当て、実際の行動として現れるという観点から次の4つの能力に整理したものである

1) 人間関係形成・社会形成能力

- 多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である
- 社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力である
- 具体的な要素としては、他者の個性を理解する力、他に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップなどが挙げられる

2) 自己理解・自己管理能力

- 自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である
- キャリア形成や人間関係形成における基盤となるものであり、とりわけ自己理解は、生涯にわたり多様なキャリアを形成する過程で常に深めていく必要がある
- 具体的な要素としては、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動などが挙げられる

3) 課題対応能力

- 仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である

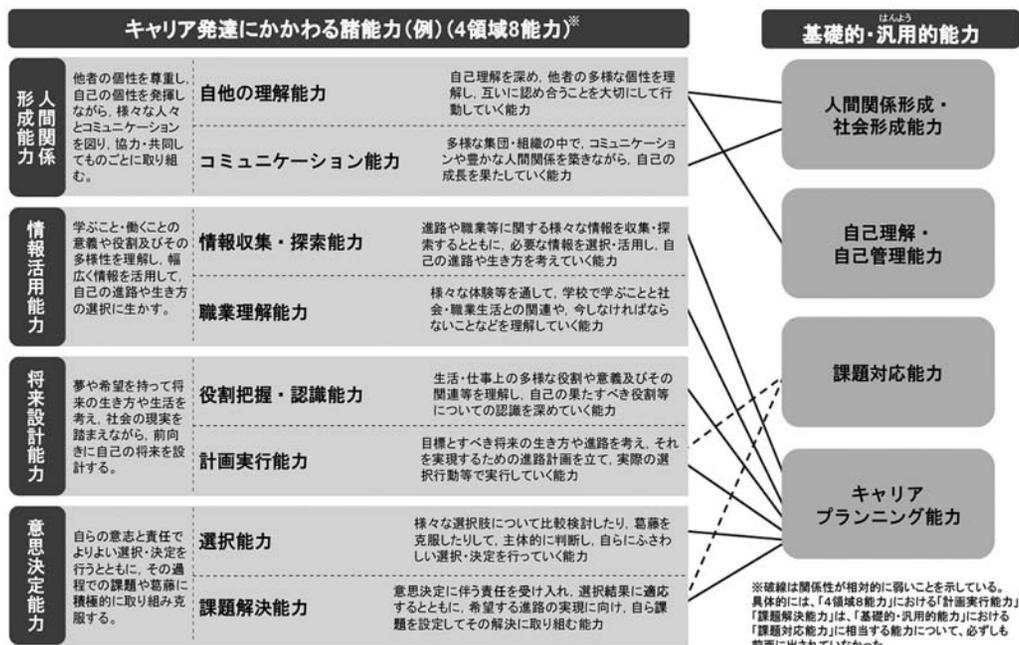
- この能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものであり、知識基盤社会の到来やグローバル化などを踏まえ、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力である
- 社会の情報化に伴い、情報や情報手段を主体的に選択し活用する力を身に付けることも重要である
- 具体的な要素としては、情報の理解・選択・処理など、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善などが挙げられる

4) キャリアプランニング能力

- 「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である
- この能力は、社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる力である
- 具体的な要素としては、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善などが挙げられる

(出典：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申) 2011年1月)

【キャリア発達にかかわる諸能力(4領域8能力)】と「基礎的・汎用的能力」の関係】



(資料出所：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申) 2011年)

3 キャリア教育の内容

(1) 大学教育の機能別分化と大学教育における「質の保証」

① 大学の機能別分化

- 1) 世界的研究・教育拠点（大学院の博士課程など）
- 2) 高度専門職業人養成（専門職学位課程など）
- 3) 幅広い職業人養成
- 4) 総合的教養教育（リベラル・アーツ・カレッジ）
- 5) 特定の専門的分野（芸術・体育など）の教育・研究
- 6) 地域の生涯学習機会の拠点
- 7) 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流など）

- 各大学が、自らの選択に基づき、一つあるいは複数の機能に重点をおいて、各大学の個性や特色を出すべきであり、それによって緩やかに機能別分化をしていく
- 3) 4) 6) の機能に重点を置く大学にあっては、充実したりメディアル（補習）教育の実施や、就職や他大学の学士・修士・専門職学位課程等への円滑な進学・編入学を特色とすることなども考えられる

（出典：中教審「我が国の高等教育の将来像」（答申）2005年1月）

② 大学教育の「質の保証」

- 高等教育の中核を担う大学に関しては、教育・研究・社会貢献という使命・役割を踏まえて、それぞれに応じて具体的にどのような機能に重点を置き、個性・特色の明確化を図っていくか、大学ごとの自律的な選択に基づく機能別の分化が必要となっている
- ユニバーサル化の段階を迎えた大学教育においては、例えば3) 幅広い職業人養成に重点を置く大学は、学生が学校から職場へ移行することを円滑に実現するための教育（卒業時の「就職力」、卒業時の「就業力」、生涯にわたる「持続的就業力」の修得）に注力することも可能である
- 企業の人材育成機能の低下が指摘される今日では、産業界や社会が、同年代の過半数が学ぶ「国民教育機関」として位置づけられる大学に対して「スクリーニング機能」ではなく、「スクリーニング機能」を果たすことを期待していると考えられる
- 大学教育においては、学生が大学で修得する教養・専門知識だけでなく、そうした知識を使いこなすための技術や能力、さらには企業や社会で活躍するために必要とされる具体的な技術や能力を修得させるべきである

（参照：川嶋太津夫「大学教育とキャリア教育：その背景とあり方」私学高等研究所講演資料2005年、中教審大学分科会「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」2008年12月など）

③ 学士課程共通の「学習成果」(共通学士力)

- ・分野横断的に学士課程教育が共通して目指す「学習成果」についての参考指針として示したもの
- ・個々の大学における学位授与の方針等の作成や分野別の質保証の枠組み作りを促進・支援することを目的としている

【学士課程共通の「学習成果」(共通学士力)】

<p>1. 知識・理解 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。 (1)多文化・異文化に関する知識の理解 (2)人類の文化、社会と自然に関する知識の理解</p> <p>2. 汎用的技能 知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能 (1)コミュニケーション・スキル 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 (2)数量的スキル 自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。 (3)情報リテラシー 情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 (4)論理的思考力 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。 (5)問題解決力 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。</p>	<p>3. 態度・志向性 (1)自己管理力 自らを律して行動できる。 (2)チームワーク、リーダーシップ 他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。 (3)倫理観 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。 (4)市民としての社会的責任 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。 (5)生涯学習力 卒業後も自律・自立して学習できる。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力</p>
---	---

(資料出所：中教審「学士課程教育の構築に向けて」(答申)2008年12月)

(2) 大学におけるキャリア教育の状況と方向性

① 大学におけるキャリア教育実施の状況

- ・大学(学部)の約88%で、職業意識・能力の形成を目的とした教育(企業関係者等による講演の実施や職業観の育成等を目的とした授業科目の開設等)を実施している

【大学におけるキャリア教育実施の状況】

○実施状況	(学部数)			
	国立	公立	私立	計
	313 (88.2%)	130 (81.3%)	1354 (89.3%)	1797 (88.4%)
○具体的な取組内容	(学部数)			
	国立	公立	私立	計
インターンシップを取り入れた授業科目の開設	216 (60.8%)	65 (40.6%)	883 (58.2%)	1164 (57.3%)
今後の将来の設計を目的とした授業科目や特別講義等の開設	233 (65.6%)	75 (46.9%)	977 (64.4%)	1285 (63.2%)
資格取得・就職対策等を目的とした授業科目や特別講義等の開設	108 (30.4%)	63 (39.4%)	810 (53.4%)	981 (48.3%)
勤労観・職業観の育成を目的とした授業科目や特別講義等の開設	222 (62.5%)	80 (50.0%)	1019 (67.2%)	1321 (65.0%)
コミュニケーション能力、課題発見・解決能力、論理的思考力等の能力の育成を目的とした授業科目の開設	137 (38.6%)	57 (35.6%)	718 (47.3%)	912 (44.9%)
社会や経済の仕組み、労働者としての権利・義務等の知識の獲得・修得を目的とした授業科目の開設	89 (25.1%)	19 (11.9%)	473 (31.2%)	581 (28.6%)
企業関係者、OB、OGなどの講演等の実施	74 (20.8%)	49 (30.6%)	506 (33.4%)	629 (31.0%)

資料：文部科学省調べ

(資料出所：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)2011年1月)